

計画策定の経緯

平成22年度に策定された「由利本荘市地域公共交通総合連携計画」が期間終了となり、近年の新たな課題への対応などを盛り込んだ「由利本荘市地域公共交通網形成計画（計画期間：H27～R1）」を策定し、駅やバス停から離れており公共交通機関を容易に利用できない『交通空白地域』の解消に向け、事業を進めてきた。現行の計画が終了することに伴い、令和2年度から5カ年を期間とする二次計画では前計画において挙げられた課題を継承しつつ、その解決のための対策をブラッシュアップし、基本理念の実現のため事業を進めることとする。

計画の区域

- ・本計画の対象区域は、本市全域とする。
- ・広域連携軸強化の観点から、本市と隣接市を結ぶ広域バス路線も計画に含める。

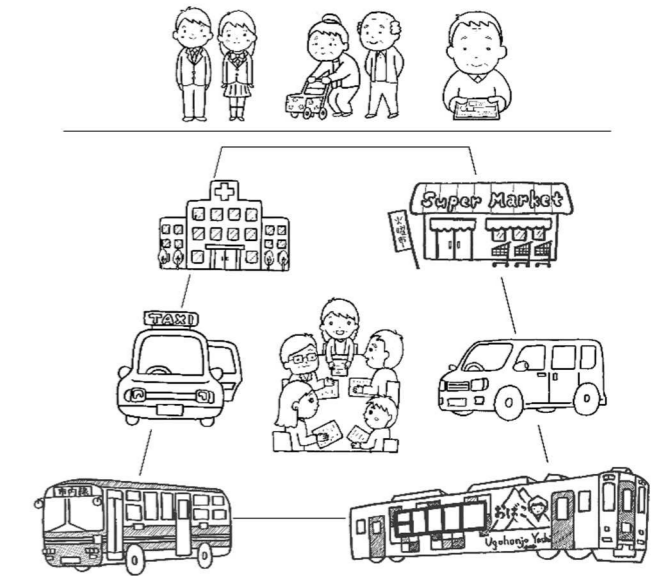
計画の期間

- ・本計画の計画期間は令和2年度から令和6年度までの5年間とする。
- ・本計画期間の終了後、事業の取り組み状況や各指標の達成状況等の評価を行い、必要に応じて計画の見直しや更新を行う。

公共交通を取り巻く課題

- 【課題1】高齢化・過疎化に伴い増加する交通弱者への対応
- 【課題2】交通空白地域の対応
- 【課題3】地域ニーズに応じた運行形態の検討
- 【課題4】バス・鉄道間の乗り継ぎの利便性向上

- 【課題5】バス路線・運行情報の充実
- 【課題6】交通結節点等における待合環境の整備
- 【課題7】広域連携軸の強化
- 【課題8】公共交通機関の魅力向上



由利本荘市地域公共交通網形成計画（第二次）の基本方針

持続可能な公共交通体系を構築し、安心して「おでかけ」できる環境を創る

第二次計画の目標と目標達成のための事業

目標1 “使える”公共交通へ

事業1-1	地域間幹線である路線バス・鉄道を維持する	
事業1-2	地域内幹線であるコミュニティバスの運行と維持	
事業1-3	各種交通モード間の接続強化	
事業1-4	羽後本荘駅ほか乗り継ぎ拠点の整備	
事業1-5	バス路線の運行経路・ダイヤ等の周知とPR	
指標	平成30年度	令和6年度
地域間幹線の路線バスの運行本数と乗車人数	15本/日 15人/日	15本/日 15人/日
公共交通力パー率	74.6%	86.8%

目標2 “自分ごとの”公共交通へ

事業2-1	町内会や老人クラブ等との「対話会」の開催	
事業2-2	地域住民の「ちょい乗り」の推進	
事業2-3	「乗り[違い]交通」事業の導入と推進	
事業2-4	地域ごとのバスラッピングの導入	
指標	平成30年度	令和6年度
「対話会」の開催回数	14回	20回
「乗り[違い]交通」事業の導入件数	—	10件
地域別ラッピング導入の台数	—	5台

目標3 “ライフスタイル提案型”の公共交通へ

事業3-1	沿線のスーパーや医療機関との連携	
事業3-2	高齢化や増加する運転免許自主返納者への対応	
事業3-3	「公共交通 意見箱」の設置	
指標	平成30年度	令和6年度
スーパーや医療機関の連携件数	—	15件
免許自主返納者のコミバス利用者数	2,014件	8,000件

目標4 “守って育てる”山ろく線

事業4-1	通学定期券購入費助成の検討	
事業4-2	各駅へのフィーダー交通導入の検討	
事業4-3	路線バスとの並走区間に関する整理検討	
指標	平成30年度	令和6年度
通学定期利用率	20%	40%